

8月25日参加者11名が車に乗り合わせ、AM8:00松本を出発。好天の中央高速道を走り、大月JC經由で河口湖ICにて降りる。そこで待機していた1名と合流し、総勢12名、計4台の車で富士スバルラインへ向かうと、その入り口手前で、係員より専用シャトルバス乗車を誘導され、大駐車場に車を置き、AM11:00全員シャトルバスにて5合目へ向かう。



五合目から眼下に河口湖を望む



林道を歩き佐藤小屋へ向かう



六合目数珠つなぎの登山者

PM12:00、混雑する五合目駐車場に到着。眼下に河口湖、山中湖を望みながら、林道を歩きAM12:30五合目佐藤小屋2350mに到着、泊する。昼食後、体調を整える為六合目に登る。そこは五合目駐車場からの登山道との合流場所となり、頂上を目指す登山者が数珠繋ぎに、夏雲の中に消えていく。陽が沈むと街の灯が点滅し、夜空に無数の星が瞬いている。明日の天気を期待して、早めに就寝する。



七合目で夜明けを迎える



山中湖上空から太陽が昇る



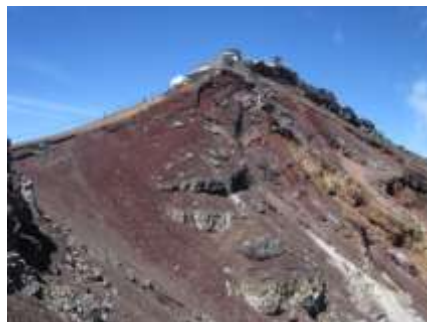
溶岩礫帯の登山道を登る

翌26日AM3:00準備を整え、暗闇の森林帯の中、ヘッドランプを照らし登り始める。見上げると遙か上方まで登山者のあかりが続いている。今日は絶好の天気だ！。六合目から溶岩礫帯をジグザに登り、七合目付近で、夜明けを迎える。東の方向、山中湖上空の雲海から橙色に輝く太陽が昇る。

足を留め、しばらくその荘厳な儀式を拝す。長い岩礫帯の登山道を登り続け、8合目3200mで朝食を摂る。中休止後、本八合目に登り出ると須走り口からの登山者と合流する。振り仰ぐと今まで尾根に隠れていた富士山頂が望まれ、元気を取り戻して確実に一步一步と山頂目指して登る。



山頂稜線直下を登る



頂上へ向かう赤茶けた急坂



日本最高点剣が峰3776mに登頂！

階段状の溶岩道を登り、大きな鳥居を潜ると、AM9:45登山者で渋滞する山頂の稜線に登り出る。「やった！」一休み後、お鉢巡りをして剣が峰の最高点を目指すこととする。時計回りに外輪コースを進み、噴

火口を右眼下に望み、御殿場、富士宮ルート of 合流ルート を左に見て進み、赤茶けた急坂を登り詰めると、AM11:00 日本最高点剣が峰 3776m に到達する。「おめでとう!」。全員で記念撮影をする。皆笑顔がほころび、胸の中は、満足感でいっぱいだ。



富士山頂の噴火口と剣が峰 3776m



大鳥居を抜けると、山頂稜線に登り出る「バンザーイ」

剣が峰で 20 分程の憩いの後、富士山の御鉢巡りの残コースを半周して吉田口山頂へ向い、山頂小屋で温かい昼食を摂り、PM1:00 下山を開始する。専用の砂礫道の下山路を下るが、埃っぽいので、8 合目から往路の登山道を降り続け、PM3:30 五合目佐藤小屋に到着する。お世話になった小屋の主人への挨拶もそこそこに、全員臨時のシャトルバスに乗り込み、専用大駐車場へ向かう。PM4:30 駐車場から再び車に乗り合わせ、河口湖 IC から中央高速道を走り、PM7:45、松本へ到着。最終解散とした。

「気高く、厳しくそして大きな日本一の富士山、その頂に立ち、登頂を果たしたと誇れる」登山だった。

MHC 登山講習責任者 MHC 理事長 鈴木雅則